



World Health
Organization



SUSTAINABLE
DEVELOPMENT
GOALS

2025年6月7日



世界食品安全の日

食品安全:
科学の実践

ここから始めるコミュニケーションツールキット



© FAO

© Sue Price

© FAO/L. De Bothegey

© FAO

© FAO

© Ana Pereira and Cristina António

© Pep Bonet/NOOR for FAO

© FAO



世界食品安全の日

私たちはみんな、安全な食品を必要としています。

しかし、食品は様々なハザード（危害要因）によって汚染される可能性があります。細菌、化学物質、菌類（カビ）や寄生虫などのハザードによって、少なくとも**200**の疾病が引き起こされる可能性があります。これらの病気は私たちの健康、日々の生活、教育、そして経済に影響を与えます。しかし、私達が**正しい知識をもって行動を起こせば**、これらの病気は防ぐことができます。

毎年6月7日、国際連合食糧農業機関（FAO）と世界保健機関（WHO）は共同して、世界中で、食品安全の日への取組を励行しています。世界食品安全の日には、食品安全は私達が共有する権利であり責任であること、つまり、誰もが果たすべき役割があることを思い出しましょう。

今年の世界食品安全の日を一緒にお祝いしましょう！

あなたが、政策立案者や食品業界の経営者・従業員でも、教育者でも、消費者でもかまいません。

食品安全はみんなのしごと
なのですから。





世界食品安全の日 2025年6月7日

テーマ 食品安全： 科学の実践

生産者から、加工業者、輸送業者、小売業者、調理者、消費者にいたるまで、フードサプライチェーンに関わる全ての人々が、食品を安全に保つために、適正規範、合意されたプロセスそして規格が普遍的に適用されることに依存しています。

これらは全て、どのように、なぜ、食品が汚染され私達が病気になるのかを探求する、利用可能な最善の科学的根拠を、慎重かつ明確に熟慮して適用することで得られるものです。科学者は食品安全上のハザードについて、既知のもの、確立されたもの、新たに生じるもの、あるいは予測されるものかによらず、それらに伴うヒトの健康リスクを評価・解析し、政策立案者や食品業界、そして消費者が安全な選択ができるように助言を提供しています。

科学なくしては、しばしば世界中に広がり複数の国境も越えるフードサプライチェーンにおいて、食品安全を維持することはできないでしょう。

今年の世界食品安全の日では、食品に関する十分な情報に基づく意思決定を行う上で、科学が果たす重要な役割をお祝いします。

科学は、食品安全の土台となるものです。





世界食品安全の日 2025年6月7日

FAO/WHO合同 食品安全科学的 助言プログラム

FAOとWHOは、世界で最も著名で独立した科学者を集め、食品安全に関する潜在的なハザードを慎重に評価します。FAOとWHOは、政策立案者、食品業界、消費者、そして特にCodex委員会(Codex Alimentarius Commission; Codex)に対して、偏りのない、根拠に基づいた助言を行います。Codexは、FAO/WHO合同プログラムにより提供された科学的助言に基づき、食品の安全性と品質に関する、国際規格やガイドライン、そして実施規範を策定します。FAO/WHO合同科学的助言プログラムは、いくつかの常設及び特設の会議体から構成されており、以下のようなものがあります。

JECFA

FAO/WHO合同食品添加物専門家会議(JECFA)は1956年に設立され、今年は第100回会合が開催される予定です。

JECFAでは、食品添加物や動物用医薬品残留物、そして食品と飼料に含まれる汚染物質と天然毒素に関係するリスクが評価されます。

JECFAに関する更なる情報については、
こちらをご覧ください：

JECFA at [FAO](#) | JECFA at [WHO](#)

JEMRA

FAO/WHO合同微生物学的リスク評価専門家会議(JEMRA)は、2000年に設立されました。

JEMRAは、食品における細菌性の病原、ウイルス及び寄生虫に伴うリスクを評価し、またそれらリスクの順位付けを行うとともに、リスク管理オプションも評価します。その他の作業として、JEMRAは、食品衛生規範の鍵となるガイダンス開発に必要な科学的助言を提供してきています。

JEMRAに関する更なる情報については、
こちらをご覧ください：

JEMRA at [FAO](#) | JEMRA at [WHO](#)

JMPR

FAO/WHO合同残留農薬専門家会議(JMPR)は、1963年に設立され、農薬の使用に伴うヒトの健康へのリスク評価を役割としています。

JMPRの専門家は、食品及び家畜用飼料における農薬残留物についてのデータと研究をレビューし、それらのデータと研究は、食品に含まれる可能性のある残留物の濃度や、ばく露されても安全な量を定めるために使われます。

JMPRに関する更なる情報については、
こちらをご覧ください：

JMPR at [FAO](#) | JMPR at [WHO](#)



世界食品安全の日 2025年6月7日

主要なメッセージ

科学は食品安全の基礎

FAO/WHO合同食品安全科学的助言プログラムによって設置されているような、国際的な専門家による会議体は、国際食品規格やガイドランスの策定に極めて重要な役割を果たし、策定された規格やガイドランスは、各国の法律に影響を与え、安全な食品の調和のとれた貿易に貢献します。このことによって、世界中の消費者が守られています。

安全でなければ食品ではない

私達みんなに、食品に対する権利があります。つまり、安全で栄養が豊富で、値段も手頃で信頼することのできる食品を、私達は手にすることができるべきだということです。

食品安全はみんなのしごと

私達の食品の安全性は、生産から消費までのフードサプライチェーンにおいて、適正規範と良好なコミュニケーションを実践できるかにかかっています。誰もが、食品を安全に保つための役割を担っています。

データなくして科学は成り立たない

全ての政府と食品事業者が、データの収集と共有において重要な役割を果たしています。データは、どのようにすれば食品を安全に保てるのかを決めるために科学者が用いる根拠となります。

食品安全はたくさんの科学分野に支えられています

微生物学や毒性学は、食品安全において極めて重要な役割を果たします。変化している世の中では、気候科学や社会科学、その他の科学分野もまた、より信頼性が高く統合された政策やガイドラインの策定を手助けする役割を果たしています。

教育が鍵

食品を安全に保つ方法について、若い人達に教えたり、研究を推進したり、消費者教育を行うことで、食品安全文化が揺るぎないものとなるでしょう。

みんながリスクマネージャー

私達はみんな、何を食べるか、また食品をどのように扱うかを毎日選択しています。これらの判断は、1人1人によって、また家族、地域社会、企業、そして政府によって行われています。食品安全に関するリスクを理解すれば、より情報に基づく判断をすることになります。





世界食品安全の日 2025年6月7日

事実と統計

- 毎年、6億人が、食品に由来する疾病で具合が悪くなっています。食品に由来する疾病の治療にかかる年間の費用は、150億米ドルだと推定されています。
- ある種の高リスクは、食品の中でそのままであるわけではなく、増える可能性があります。これらは、生きた微生物です。微生物は私達には見えませんが動くことができ、増えます。動物が微生物を運ぶ可能性がありますし、人についても同じことがいえます。微生物はいくつどこにでも存在します。科学は、これらの微生物が人に与える可能性のあるリスクを管理し、軽減するための条件を理解するのに役立ちます。
- 低・中所得国における食品に由来する疾病による経済的負担は、生産性の低下や医療費により、年間1100億米ドルを超えています。
- いくつかの化学物質は、人がそれらの化学物質に低濃度で長期に渡りばく露された場合に、特定のリスクをもたらす可能性があります。科学者達は、私達が生涯を通じてこれらの化学物質にばく露されるとしても、どうすれば安全でいられるかを判断するためのリスク評価方法を開発しました。
- 抗生物質に耐性をもった細菌が、食品から見つかることがあります。農業界や畜産業界は、抗生物質に耐性をもった病原体が、食品を介して人に伝播しないよう、適正な抗生物質の使用に警戒を怠ることのないようにしなければなりません。
- 危険ゾーンを避けよう！ 細菌は、一般に5℃(41°F)から60℃(140°F)の範囲で急速に増えるため、この温度範囲は、“危険ゾーン”として知られています。汚染のリスクを低減するためには、傷みやすい食品は、冷蔵保存(5℃以下)するか、70℃以上で調理するべきです。





世界食品安全の日 2025年6月7日

あなたには何ができる でしょう？

確かに、科学は食品安全ガイダンスの基礎となるものです。しかし、食品に由来する疾病を実際に防げるかは、私達みんなが、正しい行動をとるかにかかっています。

政府に できること:

- 研究に投資し、科学者達を支援すること。政府が政策を支援するために信頼できる科学に投資をすることによって、良好なガバナンスのための堅実な基礎を築くことができます。
- データ収集に投資すること。これにより、科学的助言の定期的な見直しの手助けとなり、国内外でのデータ共有も促進されます。
- フードサプライチェーンにおける食品安全を確実なものとし、消費者に食品の安全性に対する安心感を与え、新興リスクに取り組むための、科学に基づく政策を策定すること。
- 食品を安全に保つための知識を若い人達に与え、将来の食品安全を確実にするための科学教育を推進すること。

食品業界に できること:

- 潜在的な汚染のリスクを特定し、食品の安全な取扱、加工、流通、貯蔵を確実にするために、科学的根拠に基づき行動すること。
- 最新の食品安全規範や新興リスクについて、従業員を継続的に教育や再訓練をすることによって、食品安全の実践を強化すること。そうすることで、フードサプライチェーン全体として、一貫した高い水準が確実なものになります。
- 実施規範及びリスク管理手順の確立の元となった科学的根拠の定期的な見直しを促進し、その実施を監視し調査するために、データ収集の取組を支援すること。





世界食品安全の日 2025年6月7日

消費者に できること：

● 家庭において、**科学的根拠に基づく規範に従い、食品の安全な取扱いを実践すること。**下に示した“食品をより安全にするための5つの鍵”に従うことで、食品に由来する疾病のリスクが低減されます。



● 政府機関からの食品安全に関する**最新の助言を常に把握すること。**発生している食品に由来する疾病や新たなリスクについて把握しておくことが、私達みんなを安全にします。

アカデミア(学术界)に できること：

● 既知のリスクと新たなリスクを含む**食品安全に関する研究を実施し、そして共有すること。**また、発見を食品安全政策につなげ、公衆に周知すること。

● 政府や食品業界に対して、最新の食品安全規範、新興リスク、そして食品に由来する疾病を防ぐための信頼できる科学研究やデータの重要性に関する**教育や訓練を提供すること。**



学校に できること：

● 生徒に安全な食品の取扱いと食品衛生を教えるなど、**食品安全の基礎を教え、食品安全教育を学校のカリキュラムに取り入れること。**

● **食品安全を楽しいものにする**こと！創造的な活動を通して生徒達が学ぶことを後押しし、学校内での適正規範の開発に生徒自身を巻き込むこと。

● **科学への興味を後押しすること。**次世代の科学者は学校にいる！子供達が、科学への理解を深め、情報をしっかり評価し、正しい科学的知識に基づく選択ができる能力を身につけられるようにしましょう。



現在まん延している食品に由来する疾病
や新興リスクについて常に情報を把握する
ことが、私達みんなを安全にします。



世界食品安全の日 2025年6月7日

参加しよう



© OSARTEC

スポーツイベントを開催しよう：

食品安全を推進するための、ランニングやウォーキング、ダンスのイベントは、人々を地域社会に参加させ、食品安全への意識を高める素晴らしい方法です。



© Grupo Jumex

展示会を企画しよう：

同僚や同級生、あるいは一般の人向けに、食品安全に関する情報提供のための展示を作成しよう。



ソーシャルメディアでつながろう：

意識を高めるためのキャンペーンを立ち上げよう。すぐに使える私達のコミュニケーションツールを使って、食品安全における科学の役割を強調した、自主製作のビデオ、パンフレット、あるいはポスターを用意しましょう。グローバルな会話に参加するためには、#WorldFoodSafetyDayのハッシュタグをお忘れなく！



© SANIPES

クリエイティブになりましょう：

食品安全を支えている科学を祝うために、作曲をしたり、ダンスを創作したり、詩を書いたり、絵を描いたりしましょう！科学やイノベーションが、いかに私達が食べる食品を安全に保つための助けになっているかを表現しましょう。



© FAO / Cristiano Minichiello

食品安全に関するクイズ大会を開いてみよう：

クイズ大会を主催して、あなたの地域社会に、食品安全とそれを支える科学への関心をもってもらいましょう。クイズは、あなたの地域社会、企業や組織の中での意識向上や食品の安全な取扱の促進に役立ちます。



© FAO

オンラインイベントを主催しよう：

食品安全に関してどのような準備や対応ができているか、同僚や取引先を集めて話しあいましょう。ちょっとしたコツや情報を提供するための、質疑応答のセッションを設けましょう。



世界食品安全の日 2025年6月7日

コミュニケーションツール

FAOとWHOは、あなたが食品安全への意識を高めイベントを開くための助けになる、いくつかのコミュニケーションツールを開発しています。これらのコミュニケーションツールは、主に3つの場所から入手できます。

- **電子媒体サイト。** ポスター、広報素材、イベントに活用できるその他の資料は全て、6つの国連公用語(アラビア語、中国語、英語、フランス語、ロシア語、そしてスペイン語)で入手することができます。

ダウンロードはこちら

- **食品安全ダッシュボード「Trello」。** ソーシャルメディアカード“食品安全のウソ・ホント?”のメッセージ、ビデオ、そしてわかりやすい情報・画像は全て、6つの国連公用語にて世界食品安全の日Trelloボードから入手することができます。このボードは、毎年6月7日頃に定期的に更新されますので、お見逃しなく。

- **世界食品安全の日ウェブサイト。** 世界食品安全の日に関連するその他の全ての情報と同様に、このリンクから、食品安全リーフレットや今年の世界食品安全の日のニュースやイベントをご覧ください。





世界食品安全の日 2025年6月7日

著作権について

(ロゴマークの使用許諾について)

世界食品安全の日の共通ロゴマークは、変更を加えない限り全ての世界食品安全の日キャンペーンで使用できます。
こちらからご自由にダウンロードしてください。

ただし、**FAO**と**WHO**のロゴマークは、他のロゴマークと併用するかしないかに関わらず、いかなる理由があっても、事前に両組織に使用申請しなければならないことに注意してください。詳細については**FAO**と**WHO**のウェブサイトをご参照ください。





世界食品安全の日 2025年6月7日

このツールキットは、**FAO**と**WHO**により開発され、世界中で食品安全を推進しようとする人達が、世界食品安全の日に合わせて実施しようとするイベントの支援を目的にしています。

今年、あなたが世界食品安全の日にどのようなイベントを企画しているか、また、どのように科学を实践するのか、是非教えてください。

イベントやニュースは、世界食品安全の日ウェブサイトに掲載することができます。

イベントの詳細、写真、ビデオを共有しましょう。

Eメール: world-food-safety-day@fao.org
world-food-safety-day@who.int

ソーシャルメディア: tag @FAOWHOCodex on X

参加する: WHO's Food Systems Community
of Practice food safety group
<https://www.whofoodsystems.org/>

ハッシュタグ: #WorldFoodSafetyDay

本文書は、国際連合食糧農業機関(FAO)及び世界保健機関(WHO)により出版された 7 June 2025 | World Food Safety Day Communication Toolkitを消費者庁の研究*として日本語に翻訳したものである。原文と翻訳に相違がある場合は原文が優先される。*令和7年度 食品衛生基準行政推進調査事業費補助金「食品行政における国際整合性の確保と食品分野の国際動向に関する研究」(研究代表者: 渡邊敬浩)



Some rights reserved. This work is made available under the Creative Commons Attribution - 4.0 International licence (CCBY 4.0).

